

きばらちもんた

— 鹿児島の企業・顔・人・心 —



電気めっきと薩摩の国

テックス株式会社

代表取締役 手塚 信 幸

新聞やテレビでは景気が回復しつつあると伝えておりますが、製造業の現実には、海外との価格競争・在庫調整・そして生産の海外移転と、ニュースとは程遠いものがある様に感じられます。予測の立たない社会環境の中、表面処理業界では新参者の我が社にとりましても、次世代のあるべき姿の模索に苦慮致しております。

弊社が金属表面処理業として出発したのは十年前「北薩地区にめっき業者がほしい」と製造業の方々のお話を聞き、また私も「独自の技術を確認できる仕事がしたい」との思いから、当時の機械金属技術指導センターに技術指導を仰ぎに行ったのが始まりでした。以来工業技術センターとなってからも、新技術導入の時、トラブル発生の時、その他事ある度にお世話になっております。

製造業に金属は欠かせず、金属有る所に表面処理は必ず必要です。大まかに分けると塗装・めっき・アルマイト等になりますが、代表的で一番古い“めっき”について申しますと、奈良の大仏様も今は二度の火災で黒ずんでいますが、最初は金めっきでキンキラキンでした。1250年も前のことです。その頃は、金を水銀に溶かしたものを大仏様に塗り、炭火で加熱し水銀を蒸発させると金塗膜だけが残る方法でした。そこから金を塗るから「塗金」⇒「鍍金」・塗着の過程で金が消滅してしまう様に見えたので「鍍金」「めっき」と言うようになったようです。

古い時代のめっきは富の象徴であり権威の象徴でしたが、現在のめっきは防食・装飾・機能性の役割を果たしております。中でも機能性については工業製品の高度化と共に発展し耐摩耗性・導電性・はんだ性等を高めるため、複数の金属を同時にめっきする合金めっきが普及し、フッ素樹脂・

セラミックやダイヤモンドの粉等と金属を同時にめっきする複合めっき等も施されております。

表面処理業として出発して十年、この度当初からの念願でありました環境に優しい、働きやすい工場を建設出来たつもりであります。これからは電子部品・半導体等、より精密な表面処理分野への挑戦、より高度な独自技術の確立等を課題と思いい研究しております。

わが国で最初に電気めっきを手がけたのは島津斉彬公であるとされています。「電気めっき先進の地鹿児島」で製造業の皆様へ表面処理を通して貢献しようと付けた「TECS」の名のもとに、お客様第一の精神でご奉仕続けてまいります。

Technology 技術力を高め

Electronics 電気と

Chemical 化学により社会の発展に

Service 貢献します

プロフィール

生年月日：昭和19年8月4日

出身地：薩摩郡宮之城町

血液型：O型

モットー：念ずれば花開く

趣味：旅行・読書

